

2016年度事業報告書

公益財団法人 東洋文庫

2016年度 公益財団法人東洋文庫事業報告書

公益財団法人 東 洋 文 庫
理事長 榎 原 稔

2016年4月1日～2017年3月31日までに行われた公益財団法人東洋文庫事業の概要は下記の通りです。

事 業 目 的

公益財団法人東洋文庫は、全国の代表的な研究者よりなる東洋学連絡委員会の企画ならびに審議にもとづき、広く学界の要望に応える全国的な、また国際的な東洋学研究センターとして、資料センター・共同利用研究施設としての機能を果たすべく、必要な各種の事業を行うとともに、東洋学の不特定多数への広い普及をはかり、学術・文化・芸術の振興に寄与する。

事 業 項 目

概 要	2
I 調査研究	3
II 資料収集・整理	17
III 研究資料出版	19
IV 普及活動	20
V 学術情報提供	28
VI 地域研究プログラム	35

概 要

I 基本目的

東洋文庫は1924年に岩崎久彌氏により、モリソン (G. E. Morrison) コレクションならびに日本古典貴重資料を含む岩崎コレクションを中核とするアジアの貴重図書・資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後90年余にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を中核とする100万冊に及ぶアジア諸地域の現地語資料を継続的に収集・管理し、それらのすべてを散逸させることなく保存・管理し、同時に広く世界の研究者並びに市民に公開することを目的とした事業を進めてきた。研究事業の長期的な目的は、これらのアジア研究に関する貴重図書資料の保存・管理・公開ならびにアジア現地語資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような事業を250名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀な例であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に重要視される理由である。

II 2012-2014年度の重点事業目標

東洋文庫は、この基本目的をさらに効果的に実現するために、2012年度からは、これらの基本的な課題を推進する中で、以下の点に一層重点を置いた事業を推進してきた。

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究、地域研究、資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。
- (3) 「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、研究成果を電子化などにより広く発信し、国際交流ならびに国際的な発進力を強化する。
- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

III 2015-2017年度の重点事業目標

東洋文庫の基本的な事業を継続的に推進するなかで、特に2015-17年度においては、アジア資料研究データベース構築をより効果的に進めると共に、各研究班によるアジア現地研究・資料調査と収集を行い、東洋文庫の刊行物ならびに各種講演・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示などの取り組みを通して、ひろく内外にその研究成果を発信する計画である。以下に今期の主要な事業項目を掲げる。

- (1) アジア資料研究データベースの構築
- (2) 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化
- (5) 若手研究者の育成

これらを基本とし、以下の事業を具体的に行う。(1) 東洋学講座、(2) アジア言語資料ならびにアジア関連洋書資料に関するコーディコロジー (資料学) 講習会、(3) すべての研究班による総合アジア圏域研究国際シンポジウムを各年に開催する。(4) 研究成果のデータベース化による国際発信を強め、(5) ハーバード・エンチン研究所ならびにECAF (European Consortium for Asian Field Study)を始め協定機関との国際連携を強める。とりわけデジタル図書館としての機能を高めるため、横断的資料検索データベース作成に取り組み、アジア各地域を地域横断的に、また歴史＝現代的に比較検討し、アジア研究の総合的研究水準を高めることを目指す。これら重点目標の下に取り組みられた2016年度の事業報告を以下に記す。

I. 調査研究

2016年度は、アジア研究の長い学問的伝統と国内外の研究ネットワークを有する東洋文庫の特徴を生かし、全6研究部門13研究班が20の資料研究テーマを設定して、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析(解題・目録・訳註等の作成)と、それにもとづく基礎研究を持続的に進めていくと同時に、その研究成果を「総合アジア圏域研究」のもとに連結して、アジア諸地域の歴史と文化の地域連関と相互影響について、アジア全体を視野に入れた学際的共同研究を推進し、現代アジアの複合的・動的な把握につとめた。さらに、長期的には、そこから導き出された問題から新たな研究課題を創出するために、歴史・社会・文化等、多角的な視野から解き明かすことを試みた。また、最新の研究成果を国際的に広く発信することで、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することを目指した。その一方で、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学術交流を積極的に推進することで、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実を目指した。

別紙「2016年度のアジア資料調査地域分担一覧」に明確に示したように、東洋文庫では、西は北アフリカから東は日本に至るまで現地使用言語に基づき11の地域区分と20余の言語文化区分を設定し、研究班の形をとってアジア諸地域の現地語資料に対する研究を分担してきた。たとえば、現地語資料の開拓と発見、さらにそれらの収集にかかわる現地での交渉、および現地との共同作業で行う資料の整理・編集や目録の作成など、現地調査にはじまる連続したアジア現地語資料の収集と調査研究に取り組み、絶えず先端的な研究領域を開拓してきた。2016年度においても、地域区分・言語区分による研究グループと資料研究テーマを設定して、アジア諸地域の現地語資料の調査研究に携わった。

また、調査研究の活動は、研究部の計画にもとづき、各研究班の総括研究員から構成される研究部運営委員会にて検討し具体化された重点活動方針を基軸に推進した。

1. 調査研究における重点活動方針

A. アジア資料研究データベースの構築

担当者： 研究部 會谷 佳光
山村 義照

アジア資料研究データベースは、東洋文庫がこれまで一貫して進めてきたアジア諸地域の現地語資料研究の蓄積を踏まえ、研究班ならびに研究員個人が1～3年間の計画を立てて参加する形で構築していく。

計画の実施にあたっては、資料の性格、収集のための現地調査並びに現地研究機関との交渉、収集方法の困難性の程度、収集後の整理・編集、目録の作成、資料のデジタル化など、きわめて多様な課題がある。たとえば、現地語資料の収集にはしばしば多大な困難が伴うものであるが、東洋文庫のアジア資料研究の取り組みは、現地研究者との共同研究や共同編集活動を通じた学問的信頼関係に基づいて行われており、少なからぬアドバンテージを有しているといえる。

これらの資料収集の成果に基づいて取り組まれるアジア資料研究データベースの構築は、東洋文庫の研究員・研究班の長年に渡る資料調査・研究活動の成果を史資料・写真・地図・パンフレット・論文・解題・索引(語彙・用語・固有名詞等)・研究ノートなど複層的かつ横断的に検索可能なデータベースを構築することを目指し、その対象となる書籍・論文・その他資料等へのリンクや、他機関との連携も視野に入れている。また、2015年度に設置した全研究班が参加する「研究データベース共同研究グループ」が中心となって、年2回、研究情報発信検討委員会を開催し、研究対象地域別に選出された委員により、研究データベースの企画立案を行い、かつ進捗・公開状況について報告・協議を行っている。また、東洋文庫の研究成果の発信強化のため、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」の登録論文を一層充実させ(http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000171kenkyu)、東洋学講座等の講演会の情報や動画を登録した講演会データベースの作成を行った(<http://124.33.215.234/lecture/>)。

【研究実施概要】

アジア全域(文理融合 コディコロジー(資料学)研究)

東洋文庫等が所蔵するアジア・ヨーロッパ各地の書物に用いられた紙を対象に、光学顕微鏡による紙の分析調査結果を取り込み紙質・時代・産地等をリンクさせたデータベースの作成を検討した。

アジア全域(中国明代・日本 古地図研究)

細谷良夫研究員より寄贈された江戸時代に書写された『大明地理之図』4軸を素材として、地図と地名等をリンクさせたデータベースの作成に着手すべく検討を開始した。

アジア全域(中国唐代 研究データベース共同研究)

2015年度に作成した「新版唐代墓誌所在総合目録(増補版)データベース」の一般公開に向けた検討とデータのチェック作業を進めた。

中国・東アジア(19世紀後半～20世紀初頭 資料)

清仏、日清、日露戦争から北洋軍閥期にいたる中国の政治過程および国際政治・経済・社会動態の詳細記録「モリソンパンフレット」(東洋文庫所蔵)約6,000冊の各冊の解題を「英文サマリー」として作成し、DB公開して内外の利用者に供する作業に当たった。これは平成28年度科学研究費・基盤研究(B)「モリソン文庫」時事資料群の国際的な公開と活用による東アジア近現代史像の刷新(研究代表者:岡本隆司(京都府立大学教授))との共同の下に推進され、同上資料のうち、〈歴史〉部門全912件中370件の解題作成を終えた。

イスラーム諸地域(現代)

「日本における中東・イスラーム研究文献目録データベース」のアップデートを日本中東学会と連携して継続し、1,040件の新文献を「イスラーム地域研究資料室サイト」に掲載し、目録文献総数は計54,540件(2月末)となった。

オスマン帝国期およびトルコ共和国期の重要法令を翻訳して順次データベース化していく作業の一環として、八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』(公益財団法人東洋文庫、2014年)所収のトルコ大国民議会内規(1927年)を必要に応じて改訳するとともに、同内規に注釈を付す作業を進めた。また、トルコ共和国初期の重要な法令とトルコ大国民議会本会議決議の翻訳作業を進めた。これまでに収集した史料(とくに議会関係史料)のデータベース化の作業を進めるための打ち合わせを進めた。

中国(前近代 渤海)

渤海関係の研究に関するデータベースの充実について検討した。また、平成25～27年度科学研究費・基盤研究(B)「クラスキノ土城を中心とする沿海州渤海土城の考古学的研究」(研究代表者:清水信行(青山学院大学教授))研究成果報告書『ロシア沿海地方古代・中世城跡の門構造と鍵・錠前』掲載のロシア研究者による研究論文に、沿海地方の古代・中世の城跡に関する報告書が多数挙げられている点に着目し、これらを利用した沿海地方の資料データベースの作成について検討を開始した。

中国(前近代 社会経済史)

東洋文庫で開設当初から行われてきた《歴代正史食貨志訳註》の研究成果を基礎としながら、これに関連して制作した語彙索引、用語集成等を整理増補して、中国社会経済史の用語集成として編集し、データベースとして公開利用に供することを目的に、2016年度は『中国社会経済史用語解』(2012年刊、2014年 DB 公開)、『宋会要食貨篇社会経済用語集成』(2007年刊、2015年 DB 公開)に引き続き、2015年度に唐宋の用語約34,000件を収めた『唐宋編年史料語彙索引(Ⅰ)』の編集を完了して、2016年度にデータベースとして公開した。(http://124.33.215.236/tosohennen/tosohen_query_input.php)

平成28年度科学研究費・基盤研究(C)「宋～明代日用類書の研究」(研究代表者:大澤正昭)に協力して、『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻八(下層)律例門訳注稿(試行本)、『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻八下層所収『鳴情均化録』未収録条文訳注(試行本)を作成して、ホームページにて試験公開した。

(http://www.toyo-bunko.or.jp/research/nichiyoruisoyakuchu/sominnichiyoruisoyakuchu.html)

『中国社会経済史用語解』の増補作業の一環として、《法制》の用語解データベースを準備・編集した。中国法制史にかかわる訳注書(『唐律疏議』、『名公書判清明集』、歴代正史の『刑法志』、『明律国字解』等)、辞典・事典(東川徳治『中国法制大辞典』等)、研究書(滋賀秀三『中国家族法の原理』等)の語彙を抽出し、《法制》の用語解を分担執筆する準備作業を行った。2017年度は上掲の『中国社会経済史用語解』(刊行本、DB)と同様に、各語彙の用例上の広狭、一般語義と特殊語義の区別に即して検索できるよう、《法制》の範疇下に第1レイヤーから第3レイヤーまでの分類を施して整理した DB 版下を作成して公開する予定である。本計画は中国前近代における基層社会の重要語彙に対する調査研究の蓄積をベースとし、さらに発展させることを主眼とする。加えて、語彙検索のツールとしての在来中国製、日本製の辞書が収録する用語は、伝

統漢学を解説する工具にとどまるものが大半を占め、社会経済の日常生活の史料である俗語・俗文、ないし雅俗を混用した語彙ないし文章を読み解くための工具の提供が著しく不足してきたことの反省から、本計画は、中国基層社会の実態を究明するための工具を作成し、これを《電子辞書》として公開することを目指すものである。

中国(前近代 民事法令)

小川快之編「宋—清代法秩序民事法関係文献目録」(大島立子編『前近代中国の法と社会—成果と課題』財団法人東洋文庫、2009年所収)の増補が必要な時期に来ており、そのためのデータベース化の準備を進めた。

中国(近代 日本の華中・華南調査)

2015年度同様に、地域研究として発表された「華中」「華南」に関する諸研究に関する研究史整理を踏まえて、膨大な数に上る戦前・戦中期の日本による調査報告類を整理分類する作業を進めてきた。特に東洋文庫所蔵の資料を中心に、中国大陸に限らず、台湾及び香港での研究も視野に入れて、「華中棉産改進黨」、「台湾総督府文書」等の文献を中心に、メンバーおよび研究協力者による分析を試み、研究データベースの構築に向けた研究活動を持続的に続けた。

北東アジア(満族関係資料)

1980年代より中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、ロシア極東等の地で調査を実施した際に撮影・収集した、主として満族(清朝)関係の資料(写真、地図、パンフレット、文書等)について、継続してデジタル化を行うとともに、資料全体のデータベース化と目録化を進めた。

北東アジア(清代東アジア・北アジア諸領域 歴史的構造分析)

清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、写真で蒐集した史料の一部を既に公開したことに続き、清代政治・経済・民族・文化の各専門研究領域をもとに、海外における図書館・檔案館・研究機関等に所蔵されている檔案文献史料類のマイクロフィルム方式や新たなデジタル化方式による整理・分析作業を進めた。

朝鮮(近世 資料研究)

研究データベース構築のための基礎作業として、『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』(2003年)および『日本所在近世朝鮮記録類解題』(2010年)に記載されている各種文献の書誌情報を再点検した。

中央アジア(古ウイグル語文献)

1996年に東洋文庫とロシア・サンクトペテルブルグのロシア科学アカデミー(RAS) 東洋写本研究所(IOM) (当時の科学アカデミー東洋学研究所)との間で締結した契約に基づいて東洋文庫にもたらされたセリンディア・コレクション(SIC)中の古文書のマイクロフィルム資料によって、2002年には印刷版のカタログ(仮目録第1稿)を作成し、つづいて2014年までにデータベース「IOM 所蔵ウイグル文書目録—東洋文庫蔵マイクロフィルムより—」(カタログの第2稿に相当するデジタル版カタログ)を作成した。2016年度はデータベースの内容改訂を、一点ずつ着実に推進した。

このデータベース構築にあたって、研究グループメンバーが、IOMでの現物調査の機会に、IOMのSIC研究スタッフと面会し、東洋文庫との協力的態勢構築の方策について話し合った。その後の通信連絡によって、共同作業の可能性および成果のウェブ上での公開の可能性について協議を継続した。東洋文庫側からはウェブ上への全体像公開に向けた提案をしているが、当面は、学術研究の発展のため最も有効な公開方法として、デジタル版ファクシミリ付きのカタログを東洋文庫内部のネットワークにアップして研究者の利用に備えている。

中央アジア(敦煌・吐魯番 漢語文献)

長年当研究グループの柱であった、「サンクトペテルブルク東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献マイクロフィルム目録のデータベース化」計画における漢語文献の整理把握は、非仏典漢語文献の集約が完了し、2016年度に『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』を刊行して、その成果を報告できた。整理が終わった漢語文献のデータの公開等をめぐって、今後検討を進めることとした。

総合アジア圏域研究班の研究データベース共同研究として、氣賀澤保規研究員を中心に進めてきた『新版唐代墓誌所在総目録(増補版)』データベースが、東洋文庫内で利用検索できる態勢が整った。約9千点の唐代墓誌所載データが盛り込まれ、石刻研究への貢献が期待される。当研究グループとして、今後これらの資料研究の発信を強化することも検討している。

中央ユーラシア(近現代 イスラームと民族)

近現代中央ユーラシア刊行のロシア語を含む中央ユーラシア諸語による定期刊行物のうち、1991年のソ連解体前後期に刊行された *Haqiqati Uzbekiston*、*Javononi Tojikiston* 紙などについて、将来の研究データベース化を見据えてCD化を行い、利用の便をはかった。

チベット(チベット語文献)

チベット人研究協力者の協力のもとに、東洋文庫所蔵河口慧海請来チベット語文献テキスト・データベースの作成を行った。

インド(古代・中世史)

個々の研究班メンバーがそれぞれの専門のテーマごとに研究データベースの作成を進めた。

東南アジア(近現代 史料研究)

日本のアジア観形成過程を検討する上で重要な材料となる、明治期から第二次世界大戦前夜までの日本の東南アジア関係の文献を収集整理し、そのデータベース化を進めた。2016年度の作業を通して、東南アジアのなかでも多数が出版されたインドネシアの関係文献のデータベース化は、ほぼ終わりに近づいた。

東アジア(資料研究)

田仲一成研究員、馬場英子研究員、末成道男研究員が過去において、中国大陸、台湾、ベトナム等で実施した現地調査を通して収集した動画資料を公開した。次の通りである。

中国祭祀演劇動画(田仲一成研究員)

郷民儀礼: 河上郷槍花炮、蒲台島槍花炮、龍舟(索罟湾)、龍舟(大埔)、水頭村元宵歌台
海陸豊劇: 秦雪梅、陳三五娘、五台会兄
潮洲劇: 孟麗君、双錯認

北方系地方劇: 梁山伯祝英台、白蛇伝、二進宮

広東劇: 六国封相、春風吹渡玉門関

中国木偶戯動画(馬場英子研究員)

猪羊戯、粉粧楼

東アジア人類学動画(末成道男研究員)

台湾少数民族儀礼、ベトナム祭祀儀礼

中国祭祀演劇写真資料データベースを改定し、現地調査別の検索リストを附加した。またキーワード中の地名については、Google Mapとリンクさせた。

馬場英子研究員によって撮影された写真3,500枚を「中国浙江省舟山列島説唱木偶戯写真データベース」として公開した。併せて物語の梗概を付した。

以上の結果、中国祭祀演劇写真データベースのアクセスは2016年度3月期において、前年度同期の634,000件から20%増加して、763,000件に到達した。また、中国祭祀演劇動画のアクセス数も2016年度3月期において、8月期87,000件から5倍に急増し、441,000件に達した。他の2種の動画のアクセス数も漸増してきている。総じて2016年度における東アジア資料班のデータベース充実計画は著しい成果を上げたものと言える。

B. 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進

担当者: 研究部 會谷 佳光
徐 小潔
太田 啓子

アジア諸地域における資料収集と地域研究の蓄積を持ち、内外の研究連携を進めてきた東洋文庫であるからこそ実現可能な特徴ある研究を、アジア全体を視野に入れて多角的に推進した。それとともに、アジアの現状と密接に関連する各民族の個性豊かな歴史と文化の研究に基礎的かつ長期的に取り組むため、地域別・時代別に、あるいは周縁諸地域との地域連関や相互影響関係を視野に入れた研究を推進した。さらに基礎資料研究、現地研究、主題研究など多分野間、かつ国際間の比較研究を行うことで、大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究を実現すべく取り組んだ。また、研究成果の検討・研鑽・発表の場として、東洋文庫内外の研究者や異分野の専門家・若手研究者を集めた研究会・講演会を開催した。

【研究実施概要】

アジア全域(文理融合 コディコロジー(資料学)研究)

東洋文庫の岩崎文庫やモリソンコレクション中のアジア・ヨーロッパ各地の書物に用いられた紙を対象に、光学顕微鏡による紙の分析調査を行い、紙質・時代・産地等のマトリックスを作成するためのデータ収集を行った。また、その研究成果を発信するため、アジア資料学研究シリーズと題した講習会等を開催した。

アジア全域(中国明代・日本 古地図研究)

細谷良夫研究員より寄贈された江戸時代に書写された『大明地理之図』4軸を題材として、外部の古地図研究者等を招いて学際的な研究に着手するための研究会を開催した。

中国(現代)

政治、経済、社会の大改革を行い、その影響力が東アジアから広く世界に及びつつある現代中国の動態について、歴史・文化の要因をも視野に収めながら総合的に捉えるため、政治、経済、国際関係・文化グループに分かれて、研究会を継続実施した。

東洋文庫の現代中国研究資料室(人間文化研究機構・現代中国地域研究プログラム拠点、2016年度で事業終了)と提携して、系統的な収書を行うとともに、海外の研究機関や資料館との連携を強化する取り組みを進めた。具体的には、中国国民党文化伝播委員会党史館主任の王文隆氏を招聘して、同館の資料収蔵と整理・公開の状況について報告していただいた。東洋文庫と資料の共有など提携を求める王氏の要望に応えるかたちで、村田雄二郎・中村元哉両研究員が2017年3月に台北の党史館を訪問し、未開放の汪精衛関係文書や張群関係文書等を書庫にて閲覧し、将来の協力や提携のありかたについて王氏と突っ込んだ意見交換を行った。

国際関係・文化グループは、清朝末期から満洲事変前夜の時期に、政治の中心であった北京において継続的に発行された日本人経営の中国語新聞である『順天時報』の論説・社論の目録づくりを完了し、論文二篇を付して『『順天時報』社論・論説目録』として刊行した。

国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」の論文集を2017年度に多言語版で刊行すべく、原稿の翻訳・整理などの編集作業を進めた。

中国・東アジア(19世紀後半～20世紀初頭 資料)

平成28年度科学研究費・基盤研究(B)「『モリソン文庫』時事資料群の国際的な公開と活用による東アジア近現代史像の刷新」(研究代表者:岡本隆司(京都府立大学教授))との共同の下、清仏、日清、日露戦争から北洋軍閥期にいたる中国の政治過程および国際政治・経済・社会動態の詳細記録「モリソンパンフレット」(東洋文庫所蔵)の「英文サマリー」を作成し、(歴史)部門全912件中370件の解題作成を終えた。

イスラーム諸地域(現代)

新中東・イスラーム圏(西アジア、北アフリカ、中央アジア)内の諸国を対象として、地域や国別に進展する研究をより深化させるために、「近現代の構造変動」を設定し、3回のセミナーを開催した。2016年度は、とくに「革命」に焦点をあて、エジプトとイラン・中央アジアの事例をもとに検討し、①社会的・思想的基盤(ナショナリズム)、②過程(街頭行動や議会・集会)、③成果(政治体制、社会的権利など)、④国外への影響、といった共通の論点が明らかとなった。

2016年7月16日「エジプト革命:連続と非連続」

鈴木恵美「エジプト革命におけるナショナリズムの諸展開」、加藤博(一橋大学名誉教授)「エジプト革命における連続と非連続」、三谷博(跡見学園女子大学教授) コメント「革命の比較史」

2017年1月7日「イラン立憲革命前後のイランと中央アジア」

黒田卓「イラン系知識人の近代性認識と立憲革命」、長縄宣博「1905年革命とロシア・ムスリム:公共圏の出現と権威の変転」

2017年3月13日

ユージン・ローガン(英国オックスフォード大学教授)「第一次世界大戦と中東の分割:サイクス・ピコ協定再考」、総合コメント:臼杵陽(日本女子大学教授)

地域研究班の活動としては下記の活動を行った。

①アラブグループ

2016年7月30日「湾岸地域の国際関係史」と「大戦間期中の東中史」研究会

佐藤尚平(金沢大学准教授)「イギリス帝国の資料隠蔽工作と反英抵抗運動」、勝沼聡(慶應義塾大学准教授)「国際会議『中東の諸社会1918年-1939年: 課題・変化・移行』に参加して」

[海外調査] 鈴木恵美「エジプトの名望家に関する文献調査と研究交流」(2016年11月25日～12月4日、エジプト(カイロ))

②トルコグループ

2017年2月16日、宇野陽子(東京大学東洋文化研究所特任研究員・津田塾大学国際関係研究所研究員)「トルコ大国民議会における女性参政権審議」、粕谷元「議会議事録の史的価値:トルコ革命史研究の事例から」

③中央アジアグループ

[海外調査] 齋藤竜太(筑波大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程)「ウズベキスタンにおける研究機関との連携による「水資源問題と政治構造の変動」調査」(2017年2月25日～3月18日、ウズベキスタン(タシケント他)、受入機関:中央アジア国家間水利調整委員会学術情報センター)

中国(古代 地域史)

地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』(原典6世紀、中国最古の地理書)とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸発掘成果および衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的方法による研究に挑んでいる。すでに研究成果に基づき3冊の訳注を刊行してきたが、2016年度もその継続として月2回の研究会を開催し、前年度から取り組んできた巻16穀水編を半ばまで検討し、2018年度の訳注刊行に目途をつけることができた。復旦大学副教授、江蘇省社会科学院研究院、留学生の半年～1年にわたる研究会参加があり、国際的な学術交流に貢献した。2016年度は対象とする地域の調査は実施しなかったが、現地の調査機関とは常時情報を得る関係を構築できている。

『水経注』研究とは別に、中国古代史研究に必須の簡牘研究を行った。月2回の研究会にて、張家山漢簡二年律令を講読し、多方面にわたる意見を交換するとともに、参加者の研究発表とそれに対する批判検討を加えた。2013年度に『東洋文庫論叢』77として研究成果を刊行したが、新たな研究成果の刊行を目指し、2016年度も活発な研究活動を行った。簡牘研究には簡牘の実見、発見場所の実地調査が必要である。その観点から2016年12月に湖南省長沙市の湖南省文物考古研究所、簡牘博物館で調査を行い、学術交流を行った。

中国(前近代 渤海)

中国東北地方、沿海州の渤海墓地遺跡について、これまでの研究をまとめる一環として、鄭永振著「高句麗・渤海・靺鞨 墓葬形制比較研究」(『百濟研究』22、忠南大学校百濟研究所、1991年)を翻訳した(『青山考古』第35号(2017年5月)掲載予定)。今後、中国の研究者による渤海墓制についての研究論文を精査し、それぞれの研究者の渤海墓制の考え方を比較検討していく方針を定めた。

3月19～20日、ロシア研究者 E.I.ゲルマン、E.V.アスタシエンコワ両氏等を帯同して、富山大学大学院理工学部の酒井英男教授を訪問した。酒井氏が考古学資料の自然科学的分析のために活用している遺物・遺構の年代測定機器を使って、ロシア研究者とも協力して、沿海地方出土の渤海資料の分析に関する共同研究を進めることを相談した。

中国(前近代 社会経済史)

大澤正昭研究員を研究代表とする「宋～明代日用類書の研究」に関連し、宋、元、明、清の法制、商業、算数、仏教関係の用語の抽出とDB化の作業を進めた。具体的には明代の《日用類書》シリーズに収まる法制・商業・算数・医学・仏教関係の史料と語釈に対し調査・研究を行ってきたが、その中から『新刻天下四民便覧三台萬用正宗』巻8(律令門)・巻21(商旅門)・巻22(算法門)についての訓読と語釈をほぼ終えた。

中国(前近代 民法法令の変遷)

宋代以降の戸婚・田土・錢穀等を扱う「民事」法令を分析し、その変遷を明らかにすることを目的として、研究グループ各メンバーの専門領域である時代やテーマに則して、前近代中国の民法を中心とする中国法体系の特徴を明らかにする従来の研究を行うと同時に、2016年度より『中国法制史料読解手冊』(仮題)の刊行準備を開始した。後者は学部学生や大学院生が中国の法制史関係史料を用いて中国の「法と社会」の研究を行うための便宜を与える目的で、研究グループ各メンバーがそれぞれ得意とする領域の史料の読解手解きを行う入門ハンドブックである。今年度はその準備のために従来の資料調査・研究に加えて作成原稿を相互検討するための定期的な研究会を実施した。

中国(近代 日本の華中・華南調査)

2016年度も一昨年度からの作業の延長として、南京大学や中山大学等、現地で戦前・戦中期の日本側史料を活用している中国人研究者・研究機関との学術交流を実施し、「華中」「華南」地域の実態に関して先端的研究内容を踏まえて把握した。また、台湾の中央研究院や国史館等の研究機関や研究者等とも学術交流や実地調査を実施し、20世紀の日本人が持った中国認識の実像を明らかにすることができた。特に日本では研究が手薄であった台湾銀行等民間の機関による「華南」調査に関して、中央研究院の研究者の援助を得て、引き続き資料収集を図ることができた。

北東アジア(満族関係資料)

いままで清朝満洲語檔案資料に関する研究を実施し、「満文老檔」「旧満洲檔(「満文原檔」)」「鑲紅旗檔」「内国史院檔」等の訳注・出版をはじめとして、世界の満洲語檔案研究をリードする研究成果を公表してきた。2016年度も東洋文庫に所蔵される「鑲紅旗檔」等清代文書資料に関する共同研究を継続して実施した。1980年代より中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、そしてロシア極東等の地で調査を実施した際に撮影・収集した、主として満族(清朝)関係資料(写真、地図、パンフレット、文書等)について整理・研究を行った。これらは一般図書館においてはほとんど収集がなされていないものであり、東洋文庫ならではの調査研究である。

北東アジア(清代東アジア・北アジア諸領域 歴史的構造分析)

海外の図書館・檔案館・研究機関等からマイクロフィルム方式や新たなデジタル化方式によって新規に蒐集した史料と密接な関係を持つ東洋文庫収蔵の文献資料類を改めて検討し、その研究成果を個別論文・論文集・史料集などの形で公開する計画の一環として、東洋文庫所蔵の祭祀儀礼資料類を総合分析することによって、従来みられた清朝の国家支配構造をめぐる研究アプローチとは全く異なる、デジタル手法の導入による資料検証ならびに清朝宮廷儀礼の復元作業を、新たな長期研究課題として設定するべく、その検討作業を進めた。

2018年度に『清代諸領域の歴史的構造分析1／清朝初期政治史研究(1)』(TBRL)を、2019年度に『清代諸領域の歴史的構造分析2／清朝祭祀儀礼研究(1)『壇廟祭祀節次』』(TBRL)を出版するための準備を進めた。

朝鮮(近世 資料研究)

近世朝鮮史研究の基盤形成作業の一環として、各種記録類の現存状況を確認し、個々の資料の基本的な情報を収集・整理し、さらにそれらを体系化して解題目録にまとめることを目指し、2016年度は、既刊の解題の再点検を行った他、これまでの調査で得られた冊子体の各種文献記録類の書誌情報を再整理した。また未調査の関連文献所蔵機関等と対象文献記録類のリストアップ作業を行った。日本所在の近世朝鮮古文書や写本の形態で伝存する日記類・紀行文等については、とくに前者について本格的調査のための予備調査を実施した。これらは、『日本所在近世朝鮮記録類解題』(2010年刊)の増補改訂版刊行に向けての準備作業でもある。

日本(岩崎文庫)

東洋文庫の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているにもかかわらず、その書誌的調査が未だ十分にはなされていない。そこで、これまで『岩崎文庫貴重書書誌解題』I～VIIIを刊行することで、岩崎文庫所蔵の貴重書の研究基盤を整備し、その資料的価値を周知することに努めてきた。これに引き続き、2016年度は『岩崎文庫貴重書書誌解題IX』の2018年度の公刊を目指して準備作業を行った。岩崎文庫の書籍目録のデータ整備に取り組み、同文庫所蔵の芸能関係の古典籍について書誌調査を開始した。

なお、2015年度末に『岩崎文庫貴重書書誌解題VIII』として絵入り本の解題を公刊し、また、その付随資料集として室町期絵本翻刻集を公刊したが、その解題の一部は、東洋文庫ミュージアムの企画展「本のなかの江戸美術」展(2016年8月17日～12月25日)の展示資料として活用された。

中央アジア(古ウイグル語文献)

ウイグル語を中心とする古文書の古文書学的データを確定するために、ロシア科学アカデミー(RAS)東洋写本研究所(IOM)にて研究グループメンバーが現物調査を行って大きな収穫を得た。「IOM 所蔵ウイグル文書目録」データベースの改訂作業にあたっては、裏面の漢文仏典を手がかりにウイグル古文書の諸断片を接合させることが可能な例を拾い出し、世界のどの機関も達成していない資料価値及びデータベースの先進性を増大させた。

研究グループメンバーは、サンクトペテルブルグ所蔵のものに限定せずに、中央アジア(トルファン・敦煌他)出土の非漢文古文獻に関する個別研究を行い、随時公表した。

中央アジア(敦煌・吐魯番 漢語文獻)

2016年度は論集刊行に力を注いだ関係から、内陸アジア古文獻研究会の開催は限られたものとなったが、西安から来訪した中国人研究者に依頼して特別講演会を開催し、中国学界の最新の研究状況を知ることができた(4月杜文玉氏(陝西師範大学教授)、11月周曉薇氏(同前)。また、これに関連して、11月からの1か月間、王其禱(西安碑林博物館研究員)・周曉薇両氏を招聘し、石刻拓本等の調査が行われた。

敦煌・吐魯番文書研究は今日、国内では研究者の関心が必ずしも高くない。そうした中、当研究グループは論集の刊行に力を入れ、すこしでも現状を変え学界に貢献できるように努めた。しかし、そのため他の計画した研究活動に十分踏み込めなかった。次年度からは研究班の体制を強化し、研究項目を整え、当該領域研究の中心としての役割を果たし、着実に研究成果をあげるべく検討した。

中央ユーラシア(近現代 イスラームと民族)

近現代中央ユーラシアで刊行されたロシア語を含む中央ユーラシア諸語による定期刊行物は、これまでの収集活動によって東洋文庫にも少なからず所蔵されており、これを積極的に活用して研究を進めた。2016年度は、1991年のソ連解体前後期に刊行された *Haqiqati Uzbekiston*、*Javononi Tojikiston* 紙等のCD化を行い、利用の便をはかった。これは将来の研究データベースにも貢献するはずである。

東洋文庫を拠点に内外の研究者の参集を得て、下記の研究会を開催し、最新の研究成果を共有しながら研究を推進し、かつ貴重な交流の機会となった。

2016年6月18日 USMANOVA, Diliara Miekasymovna(カザン連邦大学歴史学部教授) "Традиции восточной археологии в Казанском университете в XX столетии"

2016年9月29日 Sophie Roche (ハイデルベルク大学 Junior Research Group Leader) "Knowledge production on Central Asia: Inquiries into how Social Sciences conducted research in and on Central Asia during and after the Soviet Union?"

2017年2月28日 イリヤス・ムスタキモフ(タタルスタン共和国国家文書委員会 文書研究利用・国際関係部長)「タタルスタン共和国国立文書館所蔵のタタール史に関する文書」

チベット(チベット語文獻)

近年中国・インドなどで新たに刊行されたチベット語写本の影印版、チベット語大藏經文獻、蔵外文獻等にもとづき、次の調査・研究を行った。

1. チベット大藏經目録の調査・研究
2. 中央アジア出土チベット語文獻の調査・研究
3. チベット文学作品の調査・研究
4. チベット仏教写本の調査・研究

上記1~4の研究に即して、“*Studia Tibetica*”シリーズの刊行準備を行った。

インド(古代・中世史)

東洋文庫に所蔵のない史料について、インド独立後の新しい出版物(とくに、情報の少ないものや最近の出版物)を国内外において調査・収集・整理した。とくに、2016年度は、北インド・ムガル時代の資料調査を対象として、小名康之研究員がイギリス、ロンドンの中央図書館(British Library)で、原典の手書き史料について調査を行った。研究班各メンバーはそれぞれの専門ごとに、テーマに沿って研究を進めた。

東南アジア(近現代 史料研究)

研究班メンバーによる研究会を開催し、近現代ならびに前近代の東南アジアの都市の成り立ちや構築したネットワーク、社会統合に果たす役割について検討した。植民地期の東南アジアの都市は、新生国家の国民統合の基盤を形成しただけでなく、その後の外来系住民と現地人との確執関係をはじめ、エスニシティ問題や領域帰属などを生み出す背景も醸成した。それまでコスモポリスを形成していた諸都市のハイブリッドな空間が、植民地期においてどのように維持されたか、あるいは変容したかを考察するために、必要な史料収集を行った。

上記の東南アジアの都市をめぐる研究成果を、2018年度に TBRL シリーズより “*The Development of Urban Societies in Southeast Asia from Historical Perspectives*” (仮題)として出版する計画を固めた。また前近代の都市の役割を検討するための重要な資料となる、東洋文庫所蔵の故仲田浩三氏が収集した東南アジア島

嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。2017年度にその目録『東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料』を刊行することを確認した。

西アジア(モロッコ 契約文書)

2014年度にあらたに購入した皮紙契約文書11点の校訂・研究のため、月例研究会を開催するとともに、8月に集中合宿を行った。また平成28年度科学研究費・基盤研究(C)「モロッコ皮紙契約文書(ヴェラム文書)の国際共同研究」(研究代表者:原山隆広)と連携し、モロッコやチュニジアにおける皮紙文書の調査を行った。

西アジア(寄進制度)

平成28年度科学研究費・基盤研究(B)「ワクフの国際共同比較研究」(研究代表者:三浦徹)と連携し、ワークショップ(日独マムルーク研究、11月)、国際研究集会への参加(10月シンガポール、12月ドーハ、2月ベルリン)等の活動を行った。

西アジア(オスマン資料研究)

東京外国語大学アジア・アフリカ研究所との共催により、国際セミナーを開催し(2月20～21日)、研究ネットワークの強化をはかった。

Guy Burak (ニューヨーク大学) “Between Istanbul and Gujarat: Descriptions of Mecca in the Sixteenth-Century Indian Ocean”

Linda Darling (アリゾナ大学), "Kanun and Kanunname in the Ottoman Empire"

東アジア(資料研究)

台湾中央研究院歴史語言研究所との間で、当方のマイクロフィルム資料と先方の漢籍全文資料庫(データベース)との交換を行った(継続)。

中国人民大学副教授呉真氏を招聘し、田仲一成研究員と共に日本の祭祀芸能の調査を実施した。収集した資料は後日データベースとして公開する予定である。

各種研究会・講演会の開催状況は、下記のとおりである。

数量/人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
研究会数	17	20	19	24	17	23	18	23	9
参加人数	151	197	201	288	95	202	117	267	131

1月	2月	3月	計
15	22	24	231
231	170	227	2,277

C. 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進

担当者: 研究部 山村 義照
徐 小潔
太田 啓子

資料調査・研究のために必要な情報を収集し、国際的な共同研究を推進し、かつその研究成果を対外的に発信することを目的に、年1回共通テーマのもとにアジア諸地域の地域比較・相互影響の解明に焦点を置いた国際シンポジウムを開催した。また、この国際シンポジウムの運営に若手研究員を携わらせることで、最新の研究動向の入手や国際的な人脈形成等を支援し、国際的に活躍可能な人材へと育成することに努めた。

2016年度は、現代中国研究班のコーディネートにより「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」(2016年9月24日)と題する国際シンポジウムを開催した。国外から7名、国内から5名の報告者及びコメントーターを招聘し、大陸中国や台湾・香港・日本において近年利用可能になった資料の整理・公開やデータベース化の状況につき報告と討論を行った。海外から招聘した研究者の報告では、『蒋介石日記』(呂芳上)、現代中朝関係文書(沈志華)、胡適記念館档案(潘光哲)、現代中国民間資料(張濟順)、民間人の書簡(張樂天)、集団化時期の農村基層文書(行龍・馬維強)等の文書群をめぐり、研究の具体的成果や今後の展開の可能性などについて紹介があり、コメントーターも含めて参加者の間で活発な意見交換がなされた。当日は内外の研究者お

よび大学院生62名の参加者を得た。

また、各研究班の主導により、下記の国際シンポジウム・ワークショップを開催した。

【研究実施概要】

アジア全域(文理融合 コディコロジー(資料学)研究)

2017年は、東洋文庫の原点であるモリソン文庫将来100周年に当たる。そこで、毎年度開催している「アジア資料学研究シリーズ」の一つとして、「モリソンコレクション将来100周年記念—紙料調査の意義と課題:コディコロジーの未来をみつめて—「紙」・「印刷」・「出版」を科学する」と題し、2017年1月27日(金)に特別講演会、翌28日(土)に講習会を開催した。内外の書誌学者や図書館司書等104名(特別講演会49名、講習会55名)の参加を得、東洋文庫のコディコロジー(資料学)研究の成果を発信し、活発な議論が行われた。

中央アジア(敦煌・吐魯番 漢語文献)

平成28年度に採択された科学研究費・基盤研究(B)「隋唐「仏教社会」の多元的構造の解明と東アジア文化論の構築」(研究代表者:氣賀澤保規(明治大学教授客員研究員))の研究テーマの中心に、敦煌吐魯番文書研究と仏教の問題を設定した。これと協力して、2017年度に東洋文庫で敦煌吐魯番文書国際シンポジウムを開催することを計画した。

D. 研究成果の刊行・発信の強化

担当者: 研究部 中村 威也

小澤 一郎

資料調査・研究の検討過程や研究成果、および国際シンポジウム・ワークショップの内容を紙媒体・電子媒体によって発信した。特に国際シンポジウムはその速報性を重視して、開催年度にオンラインジャーナル“*Modern Asian Studies Review New Series*”(http://www.toyo-bunko.or.jp/research/MASR.html)で概要を発信し、翌年度以降に紙媒体で報告論文集を刊行するための準備を進めた。また、従来の和文・欧文による発信を一層推進するとともに、新たに中国語による発信を加えることで、多言語による研究成果の国際発信力を強化し、資料交流・人的交流・国際交流に資すべく取り組んだ。

長期的・計画的にアジア研究の基礎的な成果を出版していくと同時に、最新の研究成果ばかりでなく、原典的な研究書を系統的に翻訳してオンラインジャーナルで公開することについても検討を開始した。

東洋文庫リポジトリ「ERNEST」は、2015年度より、国際情報学研究所(NII)が運営する学術機関リポジトリデータベース(IRDB)に参加することで CiNii Articles(http://ci.nii.ac.jp/en)で検索できるようになり、その発信力を高めているが、登録論文の一層の充実に取り組んだ。

編集業務に習熟した嘱託職員を採用して、研究成果の発信に際し、紙媒体・電子媒体の別なく、ハイレベルな校閲を行い、研究成果の質的向上をはかった。

【研究実施概要】

中国(現代)

国際関係・文化グループの研究成果として、清朝末期から満洲事変前夜の時期に、政治の中心であった北京において継続的に発行された日本人経営の中国語新聞である『順天時報』の論説・社論の目録づくりを完了し、論文二篇を付し、『『順天時報』論説・社論目録』(村田雄二郎監修、青山治世・関智英編)を刊行した。2016年度開催の国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」の報告要旨を、英文・中文・日文の三ヶ国語版で東洋文庫ホームページ上のオンラインジャーナル“*Modern Asian Studies Review New Series*”に掲載した。

イスラーム諸地域(現代)

『モロッコ議会議事録解説』“*Le Guide des travaux du parlement marocain (1963-2011)*”(中川恵編・著)と題して、東洋文庫現代イスラーム班において収集したモロッコ議会(上院、下院)の議事録の解説と研究をフランス語で刊行した。日本で初めてのもので、現代モロッコの政治の研究に広く資するものである。当該資料は、東洋文庫閲覧室にてデジタル化資料(CD-ROM)として閲覧・公開され、本書はその利用の手引きとなる。『オスマン民法典(メジュレ)の研究』(大河原知樹・堀井聡江編)を刊行した。本書は、昨年度終了したNIHUイスラーム地域研究東洋文庫拠点「シャリーアと近代」研究会を継承するもので、同『序説』『売買編』につづく3作目であり、賃約編(404-611条)の日本語訳および研究である。オスマン民法典は、中東・イスラーム

諸国の近現代民法に大きな影響を与えており、比較法の観点から、歴史・法の研究者による学際研究として注目される。

中国(近代)

東洋文庫を中心に近現代中国の研究を推進するため、内外の研究動向・論説・図書の批評と紹介・各種目録を掲載する学術雑誌『近代中国研究彙報』第39号を刊行した。近代中国研究班メンバーが収集した資料の紹介と同時に、戦前戦中期の日本人の中国認識の現状と問題点を整理した。さらに2015年6月20日に開催したシンポジウム「戦後中国近代史研究と東洋文庫一市古先生のお仕事を偲ぶ」をもとに、近代中国研究班が編集した『近代中国研究と市古宙三』を汲古書院から出版した。

中央アジア(敦煌・吐魯番 漢語文献)

中国人研究者4名を含む20名の敦煌吐魯番文書研究者の協力を得て、『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』を刊行した。本書は以前刊行した『敦煌吐魯番出土漢文文書の新研究』(2009年刊、2013年修訂)を継ぐ、5年間の成果であり、当該領域の専門書として内外から注目されるものである。当論集には中国語論文の翻訳者を含めて中堅若手研究者が7名、日本史研究者が2名加わり、また時代は唐代を中心にして上は五胡・高昌国期から下はモンゴル期の吐魯番まで、地域的には西はコータンから日本にまで及ぶ。扱う内容は「制度・行政文書」「地域・社会」「文化・思想」と大別される。これら執筆者の年齢的構成、内容面での多様さは、今後この領域の基盤を強化発展させていく上で大きな意味をもつ。

これとは別に、当研究グループで長年研究をリードしてきた土肥義和研究員が、研究班の協力の下、『八世紀末～十一世紀初期敦煌氏族人名集成』『氏族人名篇・人名篇』『索引篇』全2冊の大部な労作を完成させ、汲古書院から刊行した。敦煌吐魯番研究を大きく前進させる意義は大きい。

インド・東南アジア

2013年度に開催した第2回総合アジア圏域研究国際シンポジウムの報告集“*State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society*”(TBRL16)を刊行した。

西アジア(寄進制度)

ワクフ研究の成果として、イランのマシュハドにあるイマーム・レザー廟のワクフ台帳(ペルシア語)の校訂と研究を、MORIKAWA Tomoko and Christoph WERNER ed. “*Vestiges of the Razavi Shrine Āthār al-Razavīya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad*”(TBRL17)と題して刊行した。シーア派第8代イマームの聖廟があり、重要な参詣地となっている同所に寄進されたワクフ財の全容を示す資料の校訂と英文による研究であり、国内外でのイラン史およびワクフ研究に資するものである。

E. 若手研究者の育成

担当者： 研究部 山村 義照

東洋文庫における資料調査・研究、国際交流、国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材の育成に取り組んだ。

英語・中国語等の外国語に堪能な若手研究者を嘱託職員として採用し、総合アジア圏域研究班の研究活動・国際シンポジウムの運営・国際交流事業に携わらせることで、最新の研究動向の入手や国際的な人脈形成等を促し、国際的に活躍できる人材の育成に努めた。

内外の若手研究者が国際的に活躍できるスキルを身につけることを支援するため、外国人講師ポール・クラトスカ氏(シンガポール国立大学出版局編集長)による英文での研究成果発信に関するセミナーの開催を検討したが、2016年度は実現に至らなかった。

東洋文庫には、かつて首都圏在住の大学院生・若手研究者の史料読解能力を養成するという重要な役割があった。専門研究領域が多様化し、各大学で個々の研究者が指導するには少なからず限界がある現在においては、東洋文庫におけるインターカレッジ的な育成の必要性がいよいよ増大している。そこで、各研究班が主催する研究会・セミナー・講演会等において、大学生・大学院生や若手研究者の積極的な参加を促した。

上記の諸活動により、アジア研究の国際的な発信拠点・交流拠点として、国際的に活躍できる若手研究者を養成し、それによって東洋文庫の研究活動を将来に渡って継承・発展させるべく努めた。それと同時に、積極的な普及・啓蒙活動によって研究成果を社会に還元すべく取り組んだ。

【研究実施概要】

中国(現代)

国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」に若手研究者が積極的に関わり、傍聴記を執筆した。また『『順天時報』論説・社論目録』の作成にあたっては、東洋文庫PD研究員の関智英氏が中心となって関わった。

中国(古代 地域史)

月2回の研究会には研究員のほか、大学教員の参加を得ているが、他にも、10名を超える若手研究者(助教・非常勤講師・大学院生)が参加した。研究会での基礎的な報告は若手研究者に委ねられており、さらに地図や電子媒体によるデータベースの活用や、研究員の討議が加わることで、若手研究者の育成という面でも効果を発揮した。

中国(前近代 渤海)

遺物・遺構の年代測定機器による沿海地方出土の渤海資料の分析に関する共同研究について、富山大学大学院理工学部の酒井英男教授を訪問した際、若手研究者育成の一助とすべく、新進の研究者菅頭明日香氏(青山学院大学文学部准教授)を帯同した。

中国(前近代 社会経済史)

毎月の定例研究会における中国社会経済史及び《日用類書》関連テキストの研究には、若手研究者も参加して、適宜各世代の研究者を交えた研究報告も行われ、活発な議論が交わされてきた。なかでも若手の一人、小林晃氏(現・熊本大学准教授)により訓読と語釈を終えた、『蜀訟批案』、『三台萬用正宗』巻8律令門附載「招擬指南」(清代官僚の作成した訴訟関係文書)については、2016年度に補訂作業を終え、2017年度のデータベース化を目指している。

中国(前近代 民事法令の変遷)

2016年度に刊行準備を開始した『中国法制史料読解手冊』(仮題)は、学部学生や大学院生が中国の法制史関係史料を用いて中国の「法と社会」を研究する際の入門ハンドブックであり、本書の刊行は中国法制史の若手研究者の育成につながる。

中国(近代 日本の華中・華南調査)

例年通り、必要に応じて複数の若手研究者に研究会への参加を呼びかけ、近代中国研究班が続けている戦前戦中期の日本の研究機関による調査資料の収集と分析に協力してもらった。また複数のメンバーが積極的に特別研究員PDとして東洋文庫で受け入れた若手研究者の指導にあたった。

北東アジア(清代東アジア・北アジア諸領域 歴史的構造分析)

清朝史研究を進めるに際しては、漢語文献は無論のこと、満洲語・モンゴル語・チベット語・ウイグル語・朝鮮語・ヴェトナム語等で記載された文献の読解が不可欠となる。これらのうち、東洋文庫における他の研究班で対応できる言語を除き、特に満洲語ならびにモンゴル語による文献読解能力を若手研究者に教授できる機会を用意するべく、2016年度にはその実施計画案の作成と実施準備を行った。

中央ユーラシア(近現代 イスラームと民族)

近現代中央ユーラシアを専門とする海外の研究者(ロシア連邦タタルスタン共和国から2名、ドイツおよび米国から各1名)を招聘して開催した特別講演会を通して、当該領域を専攻する若手研究者に大きな刺激を与えとともに、貴重な交流の機会とした。

チベット(チベット語文献)

資料調査・研究の諸活動において、若手研究者を参加させ、協同作業を行いながら若手研究者の育成に努めた。

インド(古代・中世史)

大学院生を中心に、若手研究者の育成を進めるため、史料購読研究会の立ち上げを検討した。

東南アジア(近現代 史料研究)

2018年度出版予定の英文刊行物の寄稿者として、2015年度に研究班の研究会で報告した3名の若手研究者を加えることを確認した。また次年度以降の研究班の活動のために、新たに1名若手研究者に加えることを協議した。

西アジア

科学研究費・基盤研究(C)「新疆イスラーム法廷文書資料体の構築と研究」(研究代表者:菅原純)、基盤研

究(B)「19～20世紀中央ユーラシアにおける越境と新疆ムスリム社会の文化変容に関する研究」(研究代表者:新免康)と連携し、東洋文庫中央アジア研究班との共催により、「新疆文書史料研究セミナー」を開催した(6月4日)。また、京都外国語大学国際平和研究所と連携して、第15回中央アジア古文書セミナー(3月11-12日)を開催した。いずれも次代をになう若手研究者(大学院生)の文書資料講読の導きとなるものである。

2. 研究グループ・研究班と資料調査・研究テーマ

超域アジア研究部門

総合アジア圏域研究班「総合アジア圏域研究(2)」

「コディコロジー・紙料調査による蔵書調査研究」

「歴史地図研究—大明地理之図調査研究」

「モリソン家の人々—モリソンコレクション将来100周年記念事業」

現代中国研究班「現代中国の総合的研究(3)」

現代イスラーム研究班「新中東・イスラーム圏における議会主義の展開と立憲体制を軸とする政治文化に関する総合的比較研究」

東アジア研究部門

前近代中国研究班

「中国古代地域史研究—『水経注』の分析から—(2)」

「東アジア都城の考古学的調査・研究(4)」

「中国社会経済史用語のデータベース化」

「前近代中国民事法令の変遷(2)」

近代中国研究班「戦前・戦中期日本の華中・華南調査の研究」

東北アジア研究班

「近世朝鮮記録類の総合的研究」

「満族関係資料の研究」

「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析:政治・社会・経済・民族・文化の展開」

日本研究班「岩崎文庫貴重書の書誌的研究(3)」

内陸アジア研究部門

中央アジア研究班

「古ウイグル語および関連諸語文献に関する研究」

「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族」

「敦煌・吐魯番資料に見る多元的宗教社会の研究」

チベット研究班「チベット語文献資料の基礎研究」

インド・東南アジア研究部門

インド研究班「インド刻文史料の蒐集と研究(2)」

東南アジア研究班「近現代東南アジア史料研究」

西アジア研究部門

西アジア研究班「イスラーム地域の比較制度研究」

資料研究部門

東アジア資料研究班「東アジア資料の研究(2)」

3. 特定奨励費の位置づけと外部競争的資金の活用

上記の研究テーマによる調査研究活動は、アジア各地の異なる言語や伝統的慣行に基づいて歴史的に形成された地域社会の構成分類と密接に関連するものであり、便宜上、研究班の形を取ってはいるものの、東洋文庫におけるアジア全域を視野に入れた全体の研究事業と不可分の関係にあり、アジア地域研究の基礎的な

構成要素を成している。これは、他の競争的資金では実現が難しく、創設以来91年間の学問的伝統、資料の収集蓄積、および国内外の研究ネットワークを有する研究図書館として、東洋文庫が特定奨励費補助金によって実施するのにふさわしい事業である。

なお、各研究テーマに基づく資料の調査研究は多種多様であり、対象地域によっては困難性を伴うものもある。これらの隘路を打開するため、すべての研究班と経験豊富なシステムエンジニアからなる「研究情報発信検討委員会」を設置し、すべての計画の実施状況を初期段階から継続的に掌握・評価し、必要に応じて、予算的なまた人的な研究資源を配分することが検討可能な体制を取っている。ただし、研究の実施過程において、たとえば、研究計画の初期化・再検討が必要と判断された場合や、研究が順調に進行して集中的な作業を必要とする段階にあると判断された場合については、個別的にまたは集中的に特定奨励費補助金以外の競争的資金を積極的に活用した。

このような体制のもと、東洋文庫の班研究の伝統と特色を生かして、アジア資料の調査・研究と研究データベースの作成を両輪として資料の調査・研究を推進した。

II. 資料収集・整理

超域研究、歴史・文化研究を実施するとともに、アジアの現状および歴史に関する一次資料(写本、古文書、古文献、地図、統計、調査記録など)、専門研究書、定期刊行物を収集し、世界に誇る東洋文庫の既収資料をさらに増補・拡充した。収集した資料は、速やかに整理して電子情報化し、アジア学資料センターとしての機能強化を推進した。

上記の計画にもとづいて収集した資料は、分類・整理を経て、書誌情報のデータベース化と全文テキストおよび画像情報のデジタル化を推進し、オンライン検索サービスにより内外の研究者に広く公開した。

また東洋文庫の所蔵資料のうち、欧文の古文献、貴重漢籍や国書(日本関係書籍)、絵画・考古資料等については、重点的かつ系統的に修復・複製化を進め、永久保存をはかるとともに、それをデジタル・アーカイブに加工し、広範な利用の目的にもかなうようにした。

以上の活動を推進するため、書誌学的にも通曉した人材の育成と、アジア資料学の構築を目指し、東洋文庫独自の若手人材育成という課題に取り組んだ。

A. 資料購入

超域アジア研究、アジア諸地域研究、資料研究において必要とされる一次資料を中心に購入を進めた。購入冊数は下記の通りである。

区 分	和漢書	洋 書	その他
総合アジア圏域研究	0 冊	0 冊	18 件
超域・現代中国研究	107 冊	28 冊	0 件
超域・現代イスラーム研究	0 冊	315 冊	0 件
東アジア研究	218 冊	6 冊	0 件
内陸アジア研究	50 冊	34 冊	36 件
インド・東南アジア研究	0 冊	52 冊	0 件
西アジア研究	0 冊	214 冊	0 件
共通(継続・大型資料)	1,013 冊	296 冊	0 件
合 計	1,388 冊	947 冊	54 件

B. 資料交換

国内外各提携機関との間で資料交換を進めた。

区 分	受 贈				寄 贈		
	和漢書	洋 書	その他	計	和漢書	洋 書	計
単行本	1,222 冊	243 冊	13 冊	1,478 冊	591 冊	623 冊	1,214 冊
定期刊行物	1,557 冊	2,455 冊	0 冊	4,012 冊	4,467 冊	827 冊	5,294 冊
計	2,779 冊	2,698 冊	13 冊	5,490 冊	5,058 冊	1,450 冊	6,508 冊

C. 資料保存整理

2016年4月1日～2017年3月31日までの期間における、保存整理作業は、下記の通りである。

保存整理作業として、保存環境の整備、虫菌害の対策に努めるとともに、破損資料の修理・修復、保存容器の作製などを行った。本年度は昨年度に引き続き、ミュージアムでの展示資料を初めとする和・漢・洋古典籍(モリソン文庫・岩崎文庫ほか)を中心に作業を行った。

- ・逐次刊行物合冊製本(外注) 264 点
- ・修理・修復(破損による再製本を含む)

洋書	296点
和漢書	90点
・簡易補修	33点
・保存容器	91点
・マイクロフィルム劣化防止作業	731件

Ⅲ. 研究資料出版

A. 定期出版物刊行

- | | | |
|--|-----------|----------------|
| 1. 『東洋文庫和文紀要』(東洋学報) | 第98巻第1-4号 | A5判 4冊(刊行済) |
| 2. 『東洋文庫欧文紀要』
(<i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i>) | No.74 | B5判 1冊(刊行済) |
| 3. 『近代中国研究彙報』 | 39号 | A5判 1冊(刊行済) |
| 4. 『東洋文庫書報』 | 第48号 | A5判 1冊(刊行済) |
| 5. <i>Modern Asian Studies Review</i>
／新たなアジア研究に向けて | Vol.8 | オンラインジャーナル(公開) |
| 6. <i>Asian Research Trends New Series</i> | No.11 | A5判 1冊(刊行済) |

B. 論叢等出版

- | | | |
|--|--|-------------|
| 1. 『『順天時報』社論・論説目録』 | | A4判 1冊(刊行済) |
| 2. 『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』 | | B5判 1冊(刊行済) |
| 3. “ <i>State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society</i> ”(TBRL16) | | B5判 1冊(刊行済) |
| 4. “ <i>Vestiges of the Razavi Shrine Āthār al-Raḏavīya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad</i> ”(TBRL17) | | B5判 1冊(刊行済) |
| 5. 第5回総合アジア圏域研究国際シンポジウム要旨集『アーカイブの内と外 当代中国研究の新展開』 | | A4判 1冊(刊行済) |
| 6. “ <i>Le Guide des travaux du parlement marocain (1963-2011)</i> ” | | A4判 1冊(刊行済) |
| 7. 『オスマン民法典(マジェッレ)の研究 賃約編』 | | B5判 1冊(刊行済) |
| 8. 唐宋編年史料語彙索引データベース | | データベース(公開) |
| 9. 中国木偶戯関係写真資料データ・ベース | | データベース(公開) |

IV. 普及活動

研究資料の収集・情報公開および研究促進のために、国際交流の進展に努めた。また、超域アジア研究と歴史・文化研究の成果を、春秋の講演会・展示会等によって一般公開するとともに、招聘研究者および来日中の著名な外国人研究者による公開講演会を開催した。

A. 研究情報普及

1. 東洋学講座

春秋2期、年6回実施した。

(前期) 共通テーマ「医学・衛生的中国事情」

第554回7月15日(金)

「青蒿素(アーテミスニン)の物語」

東洋文庫研究員

飯島 渉 氏

第555回7月22日(金)

「公衆衛生学の転換」

長崎大学教授

山本太郎 氏

第556回7月29日(金)

「ローカルな知識から実験医学へ」

沖縄県教育庁文化財課史料編集班主任

帆刈浩之 氏

(後期) 共通テーマ「江戸の書物文化」

第557回11月22日(火)

「活字印刷の選択—キリシタン版を例として—」

上智大学教授

豊島正之 氏

第558回11月29日(火)

「ヨーロッパの人びとを魅了した日本の園芸—江戸の植物絵本と名所図会にその源を見る—」

東洋文庫研究員

江南和幸 氏

第559回12月6日(火)

「近世出版文化のなかの絵図・地図—海洋把握の変容と「日本」—」

東京大学教授

杉本史子 氏

2. 特別講演会

主として来日中の著名な外国人研究者を招いて実施した。

4月7日(木)

「唐大明宮朝堂の功能(淵源と機能)をめぐる新考察」

陝西師範大学教授

杜 文玉 氏

4月13日(水)

「協力構築東亞醫療史的經驗與展望」

中央研究院近代史研究所

張 哲嘉 氏

「近代史所數位資料庫(Modern History Databases);内容 and 運作」

中央研究院近代史研究所

陳 建安 氏

5月3日(火)

「マムルーク朝における筆耕と図書館」

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院名誉教授
D・バーレンス・アブーセイフ 氏

6月18日(土)

“Традиции восточной археологии в Казанском университете в XX столетии”

カザン連邦大学歴史学部教授
USMANOVA, Diliara Miekasymovna 氏

7月4日(月)

「ハーバード・イェンチン・インスティテュートの創立とヨーロッパの中央アジア探検家」

ハーバード・イェンチン研究所副所長 李 若虹 氏

7月30日(土)

「兩漢之際三公制演生小論」

復旦大学歴史学系副教授 徐 冲 氏

9月29日(木)

「康熙帝の第一回南巡の再検討」

コレージュ・ド・フランス名誉教授 Pierre-Étienne Will 氏

9月29日(木)

“Knowledge production on Central Asia: Inquiries into how Social Sciences conducted research in and on Central Asia during and after the Soviet Union?”

ハイデルベルク大学Junior Research Group Leader
Sophie Roche 氏

11月22日(火)

「礼遇と懐柔:隋朝における江南士人の文教貢献」

陝西師範大学歴史文化学院教授 周 曉薇 氏

12月4日(日) 公開シンポジウム「近現代中国農村社会の特質と変容」

開会の挨拶: 弁納才一 氏(東洋文庫研究員)

〈報告〉

田中比呂志 氏(東洋文庫研究員)

「村の権力と宗教」

湯 可可 氏(元無錫市政治協商委員会研究室主任)

「蘇南農民的衣着消費—無錫洛社農戸賬本透視之二」

毛 来靈 氏(山西大学外語学院教師)

「新農村建設中的“煤因素”」

総括討論

閉会の挨拶

司会: 祁 建民 氏(長崎県立大学教授)

1月27日(金)

“The historical significance of researching European paper with and without watermarks and its technological development”

デンマーク国立博物館名誉研究員
紙の歴史研究者国際協会会長

2月19日(日)

「近現代中国農村社会の変遷と特質－華北と華中の比較」

開会の挨拶： 弁納才一 氏(東洋文庫研究員・金沢大学教授)

劉 義強 氏(華中師範大学教授)

「中国国家治理体系の内在緊張と自我調適－基于湖北省L鎮総合扶貧改革の個案研究」

楊 学新 氏(河北大学副校長)

「ト凱視闕下の20世紀20年代の日本農業－兼与其塩山、平郷調査の比較」

肖 紅松 氏(河北大学教授)

「清末直隸戒煙活動論析」

呂 志茹 氏(河北大学副教授)

「集体化時期大型水利工程中の民工用糧－以河北省根治海河工程為例」

劉 潔 氏(河北大学副教授)

「“男女平等”の異化と誤読－以集体化時期太行山区婦女参加社会生産為例」

閉会の挨拶： 田中比呂志 氏(東洋文庫研究員・東京学芸大学教授)

司会： 祁 建民 氏(長崎県立大学教授)

2月20日(月)

"Between Istanbul and Gujarat: Descriptions of Mecca in the Sixteenth-Century Indian Ocean"

ニューヨーク大学

Librarian for Middle Eastern & Islamic Studies

Guy Burak 氏

2月21日(火)

"Kanun and Taxation in the Ottoman Empire"

岩本佳子 氏(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所日本学術振興会特別研究員(PD))

"Transformation of the Ottoman Auxiliary Unit: Yörüks and Müsellems in the Balkans as Tax-payers"

Linda Darling 氏(アリゾナ大学教授)

"Kanun and Kanunname in the Ottoman Empire"

2月28日(火)

「タタールスタン共和国国立文書館所蔵のタタール史に関する文書」

タタールスタン共和国国家文書委員会

文書研究利用・国際 関係部長

イリヤス・ムスタキモフ 氏

3月3日(金)

「西漢長安の城と郊」

中国社会科学院考古研究所教授 劉 振東 氏

3. 東洋文庫談話会

専門分野の若手研究者による成果報告会を実施した。

3月15日(水)

「清代官媒初探」

東洋文庫奨励研究員

五味知子 氏

3月15日(水)

「清末民初の北京旗人社会と新聞メディア—北京の白話報と旗人ジャーナリストを中心に」

日本学術振興会特別研究員(PD) 阿部由美子 氏

3月30日(木)

「ロシア・中央アジア・新疆間におけるタタール商人の活動」

日本学術振興会特別研究員(RPD) 濱本真実 氏

3月31日(金)

「中国農村社会再考—中華人民共和国初期、華北地域における変化/不変化—」

日本学術振興会特別研究員(PD) 河野 正 氏

4. 東洋文庫公開講座

様々な分野の著名研究者を国内外より招いて実施した。

5月15日(日)

「儒教と日本人」

大阪大学名誉教授 加地伸行 氏

「江戸儒教から学ぶこと—「模倣」と身体知」

国際基督教大学教授 小島康敬 氏

9月11日(日)

「もっと知りたい！江戸絵画の世界」

東洋文庫研究員 岡崎礼奈 氏

9月24日(土) 《第5回総合アジア圏域研究国際シンポジウム》

「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」

開会あいさつ： 濱下武志 氏(東洋文庫研究部長)

趣旨説明： 村田雄二郎 氏(東洋文庫研究員・東京大学教授)

基調報告「アーカイブ・記録・記憶」

張 濟順 氏(華東師範大学教授)

「民間史料与中国当代史研究之人文取向—華東師範大学当代文献史料中心収蔵所見」

呂 芳上 氏(台湾中央研究院兼任研究員、国史館前館長)

「日記与中国近代史研究—以「蔣介石日記」為例的討論」

特別講演会： 田仲一成 氏(東洋文庫図書部長)

「東洋文庫所蔵の中国農村祭祀関係視覚資料」

第1セッション「戦後東アジアの国際関係と檔案(アーカイブ)」

司会： 毛里和子 氏(東洋文庫研究員・早稲田大学名誉教授)

報告者： 井上正也 氏(成蹊大学准教授)

「日中平和友好条約と福田外交」

報告者： 沈 志華 氏(華東師範大学教授)

「中朝関係新起点—労働党八月事件及其結果」

コメンテーター： 下斗米伸夫 氏(法政大学教授)

第2セッション「大衆・集団・国家」

司会： 中兼和津次 氏(東洋文庫研究員・東京大学名誉教授)

報告者： 張 楽天 氏(復旦大学教授)

「当代中国人的集体記憶与個人記憶」

報告者： 行 龍 氏(山西大学副学長)・馬 維強 氏(山西大学副教授)

「集体化時代農村基層檔案与山西社会研究」

コメンテーター： 内山雅生 氏(東洋文庫研究員・宇都宮大学名誉教授)

祁建民氏(長崎県立大学教授)

第3セッション「檔案資料から見る“中国”の内と外」

司会：石川禎浩氏(京都大学教授)

報告者：潘光哲氏(台湾中央研究院研究員兼胡適記念館主任)

「研究胡適与現代中国知識人群體的新工具—簡介「胡適檔案檢索系統」与「胡適藏書目錄」

報告者：陳学然氏(香港城市大学副教授)

「檔案資料的内与外—以「五四」、「香港」為中心的探討」

コメンテーター：菅野敦志氏(名桜大学上級准教授)

総括發言・討論：村田雄二郎氏(東洋文庫研究員・東京大学教授)

10月23日(日)

「ドナルド・キーンさんと親しむ古浄瑠璃の世界」

コロンビア大学名誉教授　ドナルド・キーン氏
浄瑠璃演奏者　越後角太夫氏

11月3日(木)

「落語で入門！江戸の暮らしと言葉」

落語家　三遊亭好吉氏

12月10日(土)、12月11日(日)《国際シンポジウム2016》

「絵入り本と日本文化」(絵入本ワークショップIX)

第1日

開会のごあいさつ

(午前の部)

総合司会：日比谷孟俊氏(慶應義塾大学顧問)

江南和幸氏(龍谷大学名誉教授、東洋文庫研究員)

「奈良絵本の彩色分析」

白戸満喜子氏(学習院女子大学ほか非常勤)

「料紙から見た絵入本出版事情」

(午後の部Ⅰ)

総合司会：佐藤悟氏(実践女子大学教授)

梁蘊嫻氏(台湾元智大学助理教授)

「江戸時代の「三国志」物における『絵本通俗三国志』の位置づけ—挿絵を手がかりに—」

崔京国氏(韓国明知大学教授)

「虎狩・退治図から見られる日中韓の図柄の交流」

(午後の部Ⅱ)

総合司会：牧野元紀氏(東洋文庫主幹研究員)

グエン・ティ・オワイン氏(ベトナム社会科学院准教授)、ヴォン・ティ・フオン(ベトナム社会科学院漢喃研究所「漢喃雑誌」総編集副長)

「ベトナムの漢籍における挿絵本について—『如来応驗図』と『農事全図』を中心に—」

クリストフ・マルケ氏(フランス国立東洋言語文化大学教授)

「パリに渡ったフィッセルとシーボルト旧蔵の和本—十九世紀の日蘭仏における書物交流を考える—」

第2日

ごあいさつ

(午前の部)

総合司会：岡崎礼奈氏(東洋文庫研究員)

石上阿希氏(国際日本文化研究センター特任研究員)

「絵入百科事典の系譜と展開—『訓蒙図彙』を中心に—」

スコット・ジョンソン 氏(関西大学名誉教授)
「津田青楓の図案作品—京都の年代—」
(午後の部)
総合司会: 山本登朗 氏(関西大学教授)
田中まき 氏(神戸松蔭女子学院大学教授)
「住吉如慶筆『伊勢物語絵巻』の図様について」
赤澤真理 氏(岩手県立大学短期大学部講師)
「伊勢物語絵に描かれた建築空間—住吉如慶にみる復古表現と同時代表現—」
藤島 綾 氏(国文学研究資料館研究員)
「葛岡宣慶と『伊勢物語』」
大口裕子 氏(霞会館学芸員)
「『異本伊勢物語絵巻』のモチーフについて」

1月8日(日)

「古儀式派が変えたロシアの歴史」 法政大学教授 下斗米伸夫 氏

1月22日(日)

「ロシア文学と近代日本」 名古屋外国語大学学長 亀山郁夫 氏

1月27日(金)、28日(土)《東洋文庫アジア資料学研究シリーズ 2016年度》

「〈モリソンコレクション将来100周年記念—紙料調査の意義と課題〉コディロジーの未来をみつめて—
「紙」・「印刷」・「出版」を科学する」

第1部 特別講演会

司会: 江南和幸 氏(東洋文庫研究員、龍谷大学名誉教授)

Anna-Grethe Rischel 氏(デンマーク国立博物館名誉研究員・紙の歴史研究者国際協会会長)

"The historical significance of researching European paper with and without watermarks and its technological development"

第2部 講習会

趣旨説明: 濱下武志 氏(東洋文庫研究部長)

石塚晴通 氏(東洋文庫研究員、北海道大学名誉教授)

「料紙の質と典籍の位相—中国及び日本の写本・版本を例として」

江南和幸 氏(東洋文庫研究員、龍谷大学名誉教授)

「アジア・ヨーロッパ刊本用紙の比較研究」

中西保仁 氏(印刷博物館学芸員)

「なぜ活版印刷はメディア革命を起こせたのか」

パネルディスカッション・総合討論

パネラー: Anna-Grethe Rischel 氏、石塚晴通 氏、江南和幸 氏、中西保仁 氏

司会: 濱下武志 氏

1月29日(日)

トークショー「わが心のロシア」 名古屋外国語大学学長 亀山郁夫 氏
声優 上坂すみれ 氏

2月5日(日)

「ロマノフ王朝時代の日露交流」 大阪大学名誉教授 生田美智子 氏

「トルストイに初めて会った日本人、小西増太郎」 大阪大学非常勤講師 有宗昌子 氏

3月10日(金)

モリソン文庫渡来100周年記念プロジェクト「モリソンパンフレットの世界」

開会の挨拶: 斯波義信 氏(東洋文庫文庫長)

趣旨説明: 岡本隆司 氏(東洋文庫研究員)

講演者: 後藤春美 氏(東京大学教授)

中見立夫 氏(東洋文庫研究員)

司会: 平野健一郎 氏(東洋文庫普及展示部長)

3月19日(日)

「ロマノフ王朝時代の料理とファッション」

東京外国語大学教授 沼野恭子 氏

・以下のワークショップを開催した。

5月1日(日)・8日(日)

「三国志と『論語』」

早稲田大学教授 渡邊義浩 氏

6月19日(日)

「フジテレビKIDS 親子論語ワークショップvol.3 孔子と子路「義」「知」について」

東京大学教授 小島 毅 氏

7月17日(日)

「フジテレビKIDS 子どものための礼儀作法ワークショップvol.1 ご挨拶と物の受け渡し」

小笠原流礼法総師範 前田菱紀 氏

8月20日(土)

「製本体験シリーズ第3弾 巻物をつくろう！」

東洋文庫研究員 篠木由喜 氏

9月15日(木)、10月6日(木)・20日(木)、11月10日(木)・24日(木)、12月8日(木)

2016年度東洋文庫ジュニア研究員プログラム「ひろくて深〜い、地図と歴史」

株式会社HUMIコンサルティング代表取締役 中村佳史 氏

東洋文庫文庫長 斯波義信 氏

東洋文庫研究員 篠木由喜 氏

・以下のミュージアムコンサートを開催した。

8月9日(火)

「大地図展ミニコンサート」

リュート奏者 佐藤亜紀子 氏

3月25日(土)

「ロマノフ王朝展ミュージアムコンサート」

バラライカ奏者 マキシム・クリコフ 氏

5. 参考情報提供

『東洋文庫年報』2015年度版

A5判 1冊(刊行済)

B. データベース公開

2016年度は、引き続き洋装本漢籍などの書誌データの補充のほか、貴重洋書の全頁資料、絵画、地図などの画像データのデジタル化を進め、本格的な東洋学多言語貴重資料のマルチメディア電子図書館の構築を目指した。

2016年4月1日～2017年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ(日本語・英語)に対するオンライン検索アクセス状況については、別添資料の通りである。

C. 海外交流

フランス極東学院および中華民国中央研究院、ハーバード・エンチン研究所、アレキサンドリア図書館、イラン議会図書館、SOAS、ベトナム社会科学院漢喃研究所との学術交流を進め、資料・情報の交換と研究者の相互訪問を継続的に実施した。

なかでもハーバード大学アジア研究図書資料館であるハーバード・エンチン研究所とは、2010年10月に交流協定を結び、資料交流・人材交流のみに止まらず、共同研究ならびにそれらを通じた若手人材育成を共同で行う取り組みを開始しており、それらを一層推進した。

また、9月24日(土)に《総合アジア圏域研究国際シンポジウム》として、「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」を開催した。

V. 学術情報提供

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

A. 図書・資料の閲覧(協力)サービス

広く一般に開放された無料の閲覧室の運営を行った。

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
閲覧者人数	209人	198人	190人	201人	185人	231人
閲覧図書数	2,880冊	2,089冊	2,330冊	3,034冊	2,080冊	2,571冊
レファレンス数	56件	53件	51件	54件	50件	62件

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
168人	202人	176人	139人	225人	256人	2,380人
2,292冊	2,124冊	9,904冊	1,423冊	2,807冊	4,020冊	37,554冊
45件	55件	48件	38件	60件	68件	640件

B. 研究資料複写サービス

	申し込み件数	焼付枚数
マイクロフィルム・紙焼写真	126件	
電子複写	996件	29,258件

C. 情報提供サービス

刊行物の全文データ公開を随時更新した。

D. 展示

広く一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として、「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

1. 基本方針

このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対象とし(中学生程度の歴史知識を前提)、これらの利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

2. 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

3. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期している。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

4. 展示スケジュール

常設展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展示を開催した。

- a) 常設展は国宝と浮世絵を中心に構成されており、保存と集客の観点から毎月初めに展示資料の入れ替えを行った。
- b) 以下の展示を開催し、展示図録を発行した。また開館5周年にあたり、『東洋見聞録』ミュージアム特集号を発行した。

〈企画展〉

- ①「解体新書展ーニッポンの「医」の歩み 1500年」(2016年1月9日～4月10日)
- ②「もっと知ろうよ！ 儒教展」(2016年4月20日～8月7日)
- ③「本のなかの江戸美術展」(2016年8月17日～12月25日)
- ④「ロマノフ王朝展ー日本人の見たロシア、ロシア人の見た日本」(2017年1月7日～4月9日)

〈常設展〉

「記録された記憶～東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史」

- c) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易なものわかりやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。
- d) 上記企画展会期中に公開講座(企画展示記念講座)を開催した。
IV.普及活動ー4.東洋文庫公開講座を参照。
- e) 六義園特別展示「六義園をめぐる歴史」を開催した。

会期:①3月16日～4月10日

②4月20日～5月30日

③7月6日～8月7日

④11月23日～12月12日

会場:東洋文庫ミュージアム1階オリエントホール

5. ガイドツアー

ミュージアムへの来客サービス・集客戦略の一環として、館内ガイドツアーを実施し、好評を得た(開館期間は毎日15時に開催した)。

6. ミュージアム諮問委員会

ミュージアムの運営について外部有識者の意見を取り入れるため、新たにミュージアム諮問委員会を設置し、2016年5月19日(木)、2017年2月2日(木)に委員会を開催した。

7. 成蹊大学図書館での展示

東洋文庫の貴重書を大学図書館入口にて常設展示した。

8. 文京区向けの普及活動

- a) 6月2日 文京区の文京アカデミー区民プロデュース講座「博物館学 超!入門～ミュージアムの内側をのぞいてみよう～」を開催した。
- b) 9月21日 文京区の文京アカデミーの生涯学習「いきいきアカデミア講座」を開催した。
- c) 12月17日 文京区「文の京ミュージアムネットワーク」の会員として、区役所1階で開催された「文京ミュージアムフェスタ」にインターン生とともに参加した。各施設とも、展示・体験コーナーを開設し、PRポスター・パネル等の掲示を行った。
- d) 2月11日 東洋文庫ミュージアムにて文の京コミュニティコンサート「東洋文庫ミュージアムフルート&ハーブデュオコンサート」を開催した。

9. 図書展示コンサルティング

ミュージアムにおける図書資料展示の経験を役立てるため、学芸員が下記の図書館・団体にて講演と実演を行った。

- a) 7月5日 東京都図書館研究交流会(於 東京都立中央図書館)
- b) 8月24日 私立大学図書館協会 和漢古典籍研究分科会(於 東洋文庫)
- c) 9月13日 神奈川県図書館協会職員研修会(於 東洋文庫)
- d) 12月16日 神奈川県資料室研究会(於 神奈川県立川崎図書館)
- e) 2月28日 信州大学附属図書館セミナー(於 信州大学附属図書館)

10. 入場者数

2016年4月1日～2017年3月31日における、ミュージアム総入場者数は以下のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入場者数	2,838人	1,969人	1,637人	1,904人	1,667人	2,005人	2,397人	3,638人	4,645人

1月	2月	3月	計
2,318人	3,329人	4,735人	33,082人

E. 普及広報

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。東洋学の若年層への普及を目指し、学校連携活動も行った。

1. 要人の訪問

駐日中国大使夫妻、駐日ロシア大使館公使夫妻、他。

2. 関連書籍の刊行

『東洋文庫善本叢書』第2期「ラフカディオハーン・チェンバレン往復書簡」「東方見聞録」「ジョン・セーリス日本渡航記」全3巻(勉誠出版刊)

3. 報道実績

ミュージアムに関する報道実績の主なものを以下に挙げる(50音順)。

新聞: 『石巻かまぼこ新聞』、『産経新聞』、『東京新聞』、『日本経済新聞』、『読売新聞』など
テレビ: NHK『探検バクモン』(2017年1月25日(水)放送)にて、東洋文庫が特集された。

4. 『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援頂いている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員OBほか関係者をつなぐニュースレターとして発行・頒布した。

5. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信した。

6. 小学生・中学生・高校生・大学生向けの学習支援・普及活動

a) インターン制度により、第Ⅲ期(2016年2～4月)2名、第Ⅳ期(5～8月)2名、第Ⅴ期(9月～2017年1月)1名、第Ⅵ期(2月～4月)2名に対し、学芸員が就業体験を実施した。

b) 6月9日 東京都小石川中等教育学校(スクールパートナーシップ提携校)の中学3年生16名に対し、学芸員が文化財学習として「高校生のための博物館学入門」を行った。

- c) 6月30日～7月8日 青山学院大学文学部(キャンパスパートナーシップ提携校)の学生2名に対し、学芸員が博物館実習を行った。
- d) 11月2日 文京区立駕籠町小学校5年生48名に対し、学芸員が総合学習として講座「調べ学習<どうなってるの!? 江戸のお食事事情>」を行った。
- e) 11月15日～17日 東京都小石川中等教育学校(スクールパートナーシップ提携校)の中学2年生2名に対し、学芸員他が職場体験を実施した。
- f) 11月17日 筑波大学附属視覚特別支援学校 中学部 男女各1名に対し、東洋文庫、ミュージアム運営に関する職場体験を実施した。

7. 澤田家からの美術品寄贈

岩崎弥太郎の孫娘澤田美喜氏の親戚に当たる澤田朋子氏より、絵画(洋画・掛け軸)等の寄贈を受けた。

8. モリソン文庫調査委員会

2017年にモリソン文庫渡来100周年を迎えるに当たり、2015年度に立ち上げたモリソン文庫調査委員会において、記念出版と特別展示の準備を進めた。

9. 叙勲

元評議員の大滝則忠氏(前国立国会図書館館長)が瑞宝重光章を叙勲された。

10. 東洋文庫アカデミア

東洋文庫研究員をはじめとする各分野の専門家が講師となり、所蔵資料やこれまでの研究成果などの専門知識をわかりやすく教授する市民向け講座を下記のとおり実施した。

講座名	講師(所属)	期間	人数
初心者のための金継ぎ講座	田淵可菜(東京芸術大学大学院芸術学研究科)	2016年5月7日 ～7月30日	9
はじめてのフランス語 I	牧野元紀(東洋文庫主幹研究員)	2016年5月9日 ～8月15日	4
イスラーム美術の細密画	青木節子(トルコ細密画と文化史の会)	2016年5月9日 ～7月25日	4
トルコの手工芸 メッキキオヤ	小島優子(オヤの会講師)	2016年5月11日 ～8月3日	11
ペルシア語の世界: 中級編	渡部良子(東京大学非常勤講師)	2016年5月13日 ～7月29日	6
初歩の文人画講座(彩色画篇)	伊藤忠綱(二松学舎大学非常勤講師)	2016年5月14日 ～7月23日	8
イランの織物 ペルシア絨緞の世界	深見和子(イラン古染織研究家)	2016年5月18日	23
イランの芸術 ペルシア書道に親しむ	角田ひさ子(拓殖大学言語文化研究所講師)	2016年5月21日 ～7月30日	6
朱子学入門	垣内景子(明治大学教授)	2016年6月4日 ～7月2日	8
東西交流の考古学	飯島武次(東洋文庫研究員、駒澤大学名誉教授)	2016年6月4日 ～7月16日	4
易経講座	大場一央(早稲田大学非常勤講師)	2016年6月11日 ～6月25日	19
絵解きで学ぶ 中国の城郭都市	角山典幸(中央大学兼任講師)	2016年7月30日 ～8月27日	7
真田幸村から学ぶリーダーの資質と人間形成	佐藤敏彦((株)パスエイド代表取締役、淑徳大学非常勤講師)	2016年9月3日	5

糸でかがる一洋製本の世界	平まどか・中村美奈子 (レ・フラグマン・ドゥ・エム)	2016年9月10日	12
初歩の文人画講座 (彩色画篇) II	伊藤忠綱	2016年9月10日 ~12月3日	7
はじめてのフランス語 II	牧野元紀	2016年9月12日 ~12月19日	3
東アジアにおける日仏の出会い — 仏領インドシナと日本	フランク ミシュラン (明治大学特任准教授)	2016年9月17日 ~10月22日	8
イランの芸術 ペルシア書道に親しむ 「路傍の書」	角田ひさ子	2016年9月17日 ~12月3日	5
シナ (チャイナ) とは何か	宮脇淳子 (東洋文庫研究員)	2016年9月17日 ~12月17日	14
第3回現代中国理解セミナー 現代中国政治を理解する	高橋伸夫 (慶應義塾大学教授)、加茂具樹 (慶應義塾大学教授)、角崎信也 (日本国際問題研究所研究員)、中岡まり (常磐大学准教授)、安田淳 (慶應義塾大学教授)、江藤名保子 (中国外交研究者)	2016年10月6日 ~11月17日	12
漢訳仏典を読む	船山徹 (京都大学人文科学研究所教授)	2016年10月15日 ~10月16日	17
『祖堂集』を読む	衣川賢次 (花園大学教授)	2016年11月26日 ~11月27日	14
江戸の心を映す明治・大正のきもの	伊豆原月絵 (日本大学教授)	2016年11月26日 ~12月3日	8
「ロマノフ王朝展」を味わうために— 知られざる日本とロシアの交流史—	牧野元紀	2017年2月12日, 3月19日	26
イスラーム美術の細密画	青木節子	2017年1月9日 ~4月24日	2
トルコの手工芸 メキッキオヤ	小島優子	2017年1月11日 ~4月5日	7
ゼロから始めるロシア語入門	畔柳千明 (東京大学大学院総合文化研究科)	2017年1月20日 ~3月31日	7
ペルシア語の世界：入門編	渡部良子	2017年1月21日 ~3月18日	8
イランの芸術 ペルシア書道に親しむ 「セペフリーの詩」	角田ひさ子	2017年1月21日 ~4月1日	6
『蒙古源流』を読む	宮脇淳子	2017年1月21日 ~4月1日	8
ペルシア語の世界：初級編	渡部良子	2017年1月25日 ~3月22日	6
はじめてのフランス語Ⅲ	牧野元紀	2017年1月30日 ~3月27日	3
初歩の水墨画講座—十二支を描く・子〜巳年	伊藤忠綱	2017年2月11日 ~4月22日	7

F. 国際交流

東洋文庫は、フランス極東学院、台湾中央研究院、ハーバード・エンチン図書館、ハーバード・エンチン財団、アレキサンドリア図書館、イラン議会図書館、SOAS、ベトナム社会科学院漢喃研究所と協力協定を締結しており、これらを中心に国際交流を推進した。

G. 研究者の交流および便宜供与のサービス

1. 長期受入

(1) 外来研究員の受入

フランソワ・ラショウ（フランス国立極東学院 東京支部長）

「近世日本の美術史・宗教史(蒐集家と文人のネットワーク、黄檗文化等々)、「近世期の東アジアの交流史(日本・中国・ロシア・西欧)」

(2017年3月18日～2019年3月14日)

徐 冲（復旦大学 歴史学系 副教授）

「歴史叙述よりみた漢晋間における官僚秩序の変革」

(2015年9月10日～2016年9月9日)

[受入担当：窪添 慶文]

USMANOVA Diliara Miekasymovna（カザン連邦大学 歴史学部）

「極東における亡命タタール人の文化現象としての刊行物」

(2016年4月2日～2016年7月1日)

[受入担当：小松 久男]

蘇 基朗（香港科技大学 教授）

「近代化のための実業・法律・教育：金港堂と商務印書館の比較」

(2016年5月20日～2016年7月31日)

[受入担当：斯波 義信]

蘇 寿富美（ジョージ・メイソン大学 副教授）

「近代化のための実業・法律・教育：金港堂と商務印書館の比較」

(2016年5月20日～2016年7月31日)

[受入担当：斯波 義信]

Pierre-Étienne WILL（コレージュ・ド・フランス名誉教授）

「明清時代官僚制度の社会経済的、政治史的研究」

(2016年9月4日～2016年10月1日)

[受入担当：斯波 義信]

馬 軍（上海社会科学院 歴史研究所 研究員）

「東洋文庫と近代中日学術交流について」

(2016年10月1日～2017年5月31日)

[受入担当：小浜 正子]

王 其禕（西安碑林博物館 研究員）

「新出隋代墓誌銘の整理と研究」

(2016年11月7日～2016年12月6日)

[受入担当：氣賀澤保規]

周 曉薇（陝西師範大学 歴史文化学院 教授）

「新出隋代墓誌銘の整理と研究」

(2016年11月7日～2016年12月6日)

[受入担当：氣賀澤保規]

吳 真 (人民大学 中文系 副教授)

「中国古代戲曲演劇史」

(2017年1月7日～2017年2月18日)

[受入担当: 田仲 一成]

(2) 2016年度日本学術振興会特別研究員PDの受入

阿部 由美子(東京大学大学院 PD)

「旗人から満洲族へ—20世紀中国理解への新たな視座」

(2014年度採用、15・16年度・3カ年間)

[受入指導者: 松重 充浩]

※2017年3月31日をもって身分を終了

河野 正(東京大学大学院 PD)

「1950～60年代、多地域比較による華北農村社会の変容に関する研究」

(2014年度採用、15・16年度・3カ年間)

[受入指導者: 内山 雅生]

※2017年3月31日をもって身分を終了

関 智英(東京大学大学院 PD)

「戦時期中国人対日協力者(和平陣営)の戦後の活動と思想」

(2015年度採用、16・17年度・3カ年間)

[受入指導者: 久保 亨]

濱本 真実(東洋文庫研究員)

「近代ユーラシア陸上貿易におけるタタール商人の活動とその文化的影響」

(2014年度採用、15・16年度・3カ年間、RPD)

[受入指導者: 小松 久男]

※2017年3月31日をもって身分を終了

(3) 2016年度東洋文庫奨励研究員の受入

五味 知子(2016年度採用、就職につき終了)

2. 外国人研究者への便宜供与

各国より東洋文庫を訪問する外国人研究者に対し、調査研究上必要とされる便宜供与を行った。

Australia	Narangoa Li [Professor, The Australian National University] (他 1名)	
China	杜文玉[陝西師範大学教授] (他 1名)	
	鄭威副[武漢大学歴史学院教授] (他 1名)	
	李婉琚[広東外資学語大学マレー語科講師] (他 1名)	
	張濟順[華東師範大学教授] (他 5名)	
	荆紹福[瀋陽市公文書館館長] (他 5名)	
	吳義雄[中山大学歴史学部主任教授] (他 8名)	
Denmark	Anna-Grethe Rischel [Scientist Emeritus, National Museum of Denmark]	
	Iran	Nahid Pourrostami [Professor, Tehran University] (他 8名)
	Singapore	Farish A. Noor [Associate Professor, S・Rajaratnam School of International Studies, Nanyang Technological University]
USA	Christopher Atwood [Professor, University of Pennsylvania] (他 1名)	
	Matisoff Susan [Professor Emeritus, University of California] (他 1名)	

VI. 地域研究プログラム

現代中国研究資料室

「日本における現代中国資料の情報・研究センターの構築：資料の長期的分析による現代中国変容の解明」

東洋文庫所蔵の現代中国関係資料につき、解題・目録やデータベースの作成、資料のデジタル化などの形で利用の促進を図るほか、内外諸機関との連携を強化し、関係資料に関わる情報交換を行う。また、5つの研究班(①江南地域社会班、②図画像資料班、③ジェンダー資料班、④政治史資料班、⑤1950年代資料班)による資料分析と研究活動をひきつづき進める。各研究班を軸に内外の研究者の幅広いネットワークを作り、定期的に研究会、ワークショップ等を開き、共同研究を進めるほか、これまでの研究活動をとりまとめる成果の公表に重点を置く。

[研究実施状況]

- a) 資料利用環境の整備および国内外諸機関との連携については、国立情報学研究所との連携によりNACSIS-CATへの書誌登録を継続して行った。本年度は約4,000タイトルの東洋文庫近代中国研究委員会(現近代中国研究班)収集資料および現代中国資料が登録され、登録タイトル数は65,000件あまりとなった。
- b) 電子図書館についても引き続き拡充に努め、画像をインターネットで完全公開している資料は725タイトル、63,000画像あまりに増加した。また、利用環境の向上を継続した。
- c) 資料研究活動については、5つの研究班のもとで活発に行った。事業最終年度にあたる今年度は成果の公表に重点を置いたため回数は少ないものの、他機関・他大学との共催も含めて計7回の研究会・シンポジウムが開催された(江南地域社会班5回、図画像資料班1回、ジェンダー資料班1回)。また東洋文庫主催の国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」を後援した。
- d) 活動の成果として、①戦前期の写真資料を集成した『京都大学人文科学研究所所蔵 華北交通写真資料集成』、②ジェンダー観点から現代中国の課題を論じた論文集『現代中国のジェンダー・ポリティクス』、③「歴史の語り」をめぐる論文集『21世紀の東アジアと歴史問題—思索と対話のための政治史論』、④戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ』の影印版と記事索引、⑤20世紀中国政治に関する資料解題とデジタルリソース・リンク集『20世紀中国政治研究案内』、⑥1950年代中国史を中心とした史料案内『現代中国の源流を探る—史料ガイドブック』、⑦近代中国の知識人が残した手書き日記の一部を活字化し注釈をつけた『王清穆『農隱廬日記』(6)』(『近代中国研究彙報』所載)を公刊した。また2015年度公開の『『亜細亜大観』データベース』を人間文化研究機構の統合検索データベースと連携させることで検索方法を多様化し、利便性を向上した。

2016年度 公益財団法人東洋文庫特別事業報告書

公益財団法人 東洋文庫
理事長 榎原 稔

2016年4月1日から2017年3月31日までに行われた公益財団法人東洋文庫特別事業の概要は、下記の通りです。

事業内容

特別調査研究並びに研究成果の編集等

A. 日本学術振興会科学研究費補助金による事業

1. 研究成果公開促進費(データベース、学術図書)の対象事業

①研究成果データベース

「東洋学多言語貴重資料のマルチメディア情報システム」

[研究代表者:東洋文庫電算化委員会委員長:斯波 義信]

(2014年度採用、5ヶ年・第3年度)

②学術図書

「宋代南海貿易史の研究」

[申請者:土肥 祐子]

2. 基盤研究(B)の対象事業

「ワクフ(イスラーム寄進制度)の国際共同比較研究」

[研究代表者:三浦 徹]

(2013年度採用、4ヶ年間・最終年度)

「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」

[研究代表者:本庄 比佐子]

(2015年度採用、5ヶ年・第2年度)

「イスラーム地域における物質文化史の比較研究～イベリア半島から中央アジアまで～」

[研究代表者:真道 洋子]

(2016年度採用、5ヶ年・第1年度)

3. 基盤研究(C)の対象事業

「宋～明代日用類書の基礎的研究」

[研究代表者:大澤 正昭]

(2015年度採用、4ヶ年・第2年度)

「モロッコ皮紙契約文書(ヴェラム文書)の国際共同研究」

[研究代表者:原山 隆広]

(2016年度採用、3ヶ年・第1年度)

「渭河流域における秦文化成立の考古学的研究」

[研究代表者:飯島 武次]
(2016年度採用、3ヶ年・第1年度)

4. 若手研究(B)の対象事業

「近世・近代の中国におけるジェンダーイメージの構築と変容:メディアと裁判に着目して」

[研究代表者:五味 知子(奨励研究員)]
(2016年度採用、3ヶ年・第1年度)

「多文化共生の危機:仙台・神戸朝鮮学校の再建比較研究」

[研究代表者:加藤 恵美]
(2015年度採用、2ヶ年・最終年度)
※補助事業期間を次年度まで延長

以 上